

2020年第1回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日時： 2020年11月19日（木）14：00～16：00

場所： おおぶ文化交流の杜 会議室

出席者： 委員6名／大府市（文化振興課田中課長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長野村・文化部門マネージャー森・営業推進2課課長加藤 図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長上野・図書館部門マネージャー小倉）

発言者

議事録

- 事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。
おおぶ文化交流の杜運営協議会は例年5月と11月に開催しておりますが、5月が新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいましたので、今回が第1回目として実施させていただきます。それではこれより2020年度第1回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。
- 司 会 アローブも開館7年目になりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休館を余儀なくされたり、過去にない運営を強いられています。厳しい環境下ではありますが感染対策をしながら安心安全な運営を心がけていると聞いております。
本日は文化部門・図書館部門の今年度上半期報告と、来年度の事業運営計画について議論して頂きたいと思っております。5月が実施できなかったため、2019年度下期の運営についても確認できればと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。本日は1名欠席ですが、本協議会の規約に則り委員過半数が出席の為会議成立となります。

～2019年度下半期の文化交流部門・図書館部門の運営について確認～

- 司 会 5月に郵送した2019年度下期の各部門報告資料について、ご意見ご質問などがあれば挙手の上お伺いしたい。
- 全 員 特になし。

～2020年度上半期文化交流部門より説明～

- 司 会 コロナ禍においても工夫して事業をしていると感じている。各事業のアンケート結果を資料に盛り込んであるのはとても良いと思う。それではご意見ご質問などがあればお願いしたい。
- A 委員 施設使用料の舞台のみが119万円もあり前年度の倍以上の数字となっている。理由を教えてください。
- J C D 収納料金としての位置づけなので、当月利用ではなく先の分までが含まれているが、理由としては大きく2つ考えられる。他の会場（スタジオ等）は閉鎖されているが、舞台ならば利用できるため移動した利用者も多かった事と、地元のダンスチームが自前のスタジオを工事する為、その代わりとしてアローブをご利用いただいた事だ。
- A 委員 アローブが開館していたからこそその結果だ。

B 委員 コロナ禍で皆が委縮してしまったような状況であるが、情報伝達の仕方が目まぐるしく変わっていく過渡期なのかと思っている。テレビ画面からの情報で涙が出たり、音楽が流れてくると嬉しかったり情報を得ることで得られるものは大きい。今後も何等かの形で情報伝達をしていかないといけないと思っている。インスタグラムやツイッターというものは、若い世代は問題ないだろうが、ピンとこない世代もある。高齢化社会でもあるので、そういったことができない人たちも割合的には高いと思っている。そのような人たちをフォローし、共存して行く為の情報伝達手段を持つ必要性を感じている。私もできる事からやっいてこうと努力はしているが、イベントなどに誰かをお誘いしても、いつもは参加して下さる方も、とても怖くて参加できないとお返事をいただく。参加に対しての考え方に「二極化」が起きている。そのような状況を目の当たりにすると本当に実施しても良いのか、今悶々としたものを抱えている。これからもコロナの影響が継続する事を考えると、情報伝達の在り方を考えることが極めて重要だと改めて感じる。

司 会 各委員の方々に、ご自分のコロナ以降の経験などもよろしければお話しいただきたい。

C 委員 教室のバレエ発表会をこもればホールで4月に実施するつもりだった。ホールの使用ができなくなり、発表会を中止にするか延期にするか難しい問題もあったが、それよりも風評被害が一番最初にあった。スタジオの窓は四方向あり換気扇も回し、感染対策はしっかりと行っていたが、スタジオに行くとコロナになるというご意見がご父兄からあった。面と向かってご意見を下さるのではなく、LINEで来てかなり気を落とした。今回は1か月半仕事がなかったので、人生で初めて何もしない1か月半を過ごすことになったが、こんな世界もあるんだと気づきもあった。6月から仕事は再開になり、いつの間にか毎日仕事をさせていただいている。そして今は私自身を必要とくださるシニアの方がいることが分かった。現在スポーツクラブでシニアクラスを担当しているが、悩み相談など話を聞いて欲しい方が本当にたくさんいらっしゃる。そういった悩みに耳を傾けながら体操指導をすると、体の不調が治ったと言ってくださる。そのようなシニアの方はネットを見ない。見たくても環境が整っておらず見られない方もいる。どうやって情報を発信したらいいのかは難しい問題だ。コロナ禍で自分の仕事の仕方も変わった。毎日1回完結型のレッスンを行い、お目にかかれる方とのご縁を大切にしている。私自身が楽しければ、参加者も楽しんでくださる筈だと思って過ごしている。しかし今はまだ発表会をする勇気が出ないのが正直なところだ。豊田で発表会をした先生も、リハーサルまでのコロナ対策をしっかりとした上で本番を迎え、その後2週間の観察期間を経てやっと終わったと実感できたと言っていた。みんなが納得して何かをするというのは本当に難しい。私としてはソーシャルディスタンスを確保したレッスン、マスクの着用、手洗い消毒を徹底している。現在エニスポの講師としてもアローブの舞台を利用しているが、使用方法について各団体でアバウトな部分もあるようだ。おおぶ広報で配布されたコロナ対策冊子のようなマニュアルがアローブにもあると良いと思っている。公民館ではしっかりと出来ていることが、少し広い場所になると適当になってしまうようだ。

D 委員 コロナ自粛中も近隣の図書館は閉館していたが、大府は開館していた。予約棚があって本当に良かったと思っている。スタッフは戦々恐々とされていたが、ずっと大府は予約棚を

活用して継続してくださったので、閉館していた名古屋市や他の市町村の方はすごく喜んでくださった。アローブに来れば本を借りる事ができたので、このような時にこそ本や読書の強さを実感することができた。図書館子どもまつりをどうするのかも大きな問題だった。やっていいのか、やるんだとしたらどういった形にすればいいのか、やめるならばこれまで続いたものを消していいのか、いろいろな葛藤があった。子ども達の夏休みも短くなっている中、検討事項は本当にたくさんあった。色々な課題を乗り越え実施したわけだが、子どもまつりが終わってからも土日などはお父さんと来館される子どもも増えたようだ。図書館として、コロナ禍の気分転換の役割を果たすことができたのではないかと思っている。

司 会 結論が出せる話ではないが、大きく2つの課題が浮き彫りになったと思っている。1つは高齢者であっても情報が受け取れるような仕組みをどうやって構築していくか。いわゆる「デジタルディバイド」という話。もう1つはいろいろな価値観があり、イベントをやるのかやらないのか意見が「二極化」してしまう中で選択が問われていることだ。これはアローブにも言えることでこれからも課題になり続けるのだと思う。

～2020年度上半期図書館部門より説明～

司 会 図書館も苦勞していろいろなやり方で運営されているのが伝わってきた。ご意見ご質問などあれば伺いたい。

A 委員 資料16ページの末尾が「知って」で切れてしまっている。

T R C 「知っていただいて良かった」と記載されていた。訂正させていただく。

D 委員 図書館子どもまつりでは、サポーターから懐かしい本や紹介したい本の情報提供があった。それを本の表紙の絵柄と共に、図書館スタッフが展示用のひまわりの葉っぱに掲載してくださった。本の表紙があると非常に分かりやすくとても良かった。サポーターはメールや紙などそれぞれの方法で情報提供したが、スタッフがしっかりとまとめてくださったので感謝している。臨時休館中も勉強や掃除などやることはたくさんあったと聞いているが、本当に頑張ってくれた。こんな状況下でも図書館に来てくれた子ども達に元気を与えられるように施されたひまわりの展示は、本当に素晴らしかった。8月いっぱい展示だったが、その様子は壮観だった。

T R C ひまわりの展示はサポーターさんにも手伝っていただいた。一体感が生まれた点も良かったと思っている。

D 委員 アンケート結果についてだが、電子書籍については認知度がかなり上がってきたと思うが、それ以外は「そのサービスを知らない」という回答が多いようだ。ツイッターなどを使いPRに努めていると思うがまだまだだと思う。「知っているけど利用していない」という回答は問題ないが、「そのサービスを知らない」というのは勿体ないので今後の検討をお願いしたい。

司 会 アンケート結果の分析についてだが、棒グラフなどを利用し、何の認知度が高く何が低いかなど、一覧になっていると分かりやすいと思うので、次回に向けて検討して欲しい。

- E 委員 子どもまつりでは「大倉公園の河童」に関わらせてもらった。先輩の朗読が非常に勉強になった。地域によってイントネーションが違うから調べたとおっしゃる先輩もいて、学ぶところがあって良かった。私自身も子どもと「図書館のお仕事体験」に参加した。これは図書館ならではの企画で、子どもも真剣に参加することができた。コロナ禍であっても工夫しながらやれるイベントを実施していただけて本当に良かった。私の職場は大府市ではないが、仕事場の方にも大府は予約した本を借りる事が出来て羨ましいと言われた。近隣の図書館が閉まる中、アローブは頑張っただけで対応してくださり市民としても有難かった。
- 司 会 ここまで図書館部門の話聞いたが、こういった状況下でも工夫して実績を積み重ね、知見も得られていることはとても良いと思った。

～2021 年度運営計画 文化部門・図書館部門より説明及び総括～

- 司 会 ご意見ご質問があれば伺いたい。
- A 委員 図書館の「外国語ガイドサービス」はどのくらいの種類の言語を考えているのか。
- T R C ボランティア団体さんと一緒にイベントを計画している。ベトナムやフィリピンの利用者が多くなってきているので、そちらにも対応していきたいと考えている。外国人の方の利用傾向も変わってきている。居住しながら図書館を利用してくださっている方も多い。現状はなかなかできていないが、ボランティアさんの協力も得ながら、東南アジア圏に対応していくべきだと感じている。
- 司 会 せっかくの機会なので情報の伝達手段、開催の可否、判断基準について意見交換をしていきたい。市役所も同じことを課題にしているだろう。コロナ禍の工夫などヒントになりそうなことがあればお願いしたい。
- 大 府 市 このような会議自体が開催できずにいたので、話をする機会は今日が最初になると思うが、3月あたりから「何のための図書館なのか」「何のためのホールなのか」「何のための文化事業なのか」そもそも「文化振興課は必要なのか」と本当に考えさせられた。
- 先ほど図書館子どもまつりの先輩の朗読で感動したという話があったが、「まつり」は人間関係を次に繋げていくために1年に1回でもやっていかなくてはならないものだと私は思う。行政主体のイベントは簡単に中止を判断できるが、市民主体のイベントを簡単に中止にはしたくなかった。合唱祭や子どもまつりのように実行委員会が企画しているイベントを、「なんで実施するのか」「なんで実施させるのか」という電話も市にはかかってきた。それについては実行委員会が委縮してしまっても良くないと思った。利用に関しての細かいルールについても、「A」は良いけど「A´」はだめ、「B」は良いけど「B´」はだめというものが出てくる。しかしそういった事にとられることはしたくないと思ってやっていた。YouTubu の配信なども、本来の舞台を創るということからは離れ、全く別の物を創るということになるのに現場が努力してやってくれたことは感謝している。また図書館子どもまつりを工夫しながらやってくれたことも有難かった。現場が判断して実施する場を維持する事が、私たちの責任だと思っている。とは言ってもコロナ前の利用に100%戻している自治体もある中で、その部分は力不足で申し訳ない。先ほど情報伝達の議論が

あったが、イベントの自粛が多いので、これまでならば立ち話で済むようなことも出来なくなった。その為電話をするケースが多くなった。この協議会でもはっきりしたが、情報をどうやって共有していくかは今後の課題になると思っている。11月に入ってコロナの感染が拡大してきた。10月までの状況を見てもっと規制を緩めたいという気持ちもあったけれども、後戻りしないように今の状況を保ち、場の提供をしていきたいと思っている。工夫して人間関係を維持していただけているのは有難い。

- C 委員 愛三文化会館から声をかけていただき、YouTubeの「ストリートコンサート」に出演した。スタッフがカメラを用意し撮影してくださったが、著作権の事もあって無音声になっている部分もある。大府市の50周年事業に携わる予定で録音しておいた「パプリカ」の音源のみ、演奏者に了承をいただいて使用する事ができた。バレエはできなかったのでダンスをしたが、参加した子ども達が本当に楽しかったと言ってくれた。私自身ではYouTubeにパフォーマンスをアップすることはできないので、一個人として発信できないことをやっていただけて本当に感謝している。手前味噌だが朝昼晩YouTubeを視聴し、再生回数を伸ばしている。大府市民はぐっと固まる部分もあるがバラバラのところもある。全てが中止になってしまったので、こういった取り組みがきっかけとなって市民が一つになれる場があると良いと思っている。
- J C D JTB コミュニケーションデザインでは全国で50館の施設を管理させていただいている。コロナ禍の対応は自治体によってバラバラである。国の指針がある中で、100%で運用しているところもあれば、7割程度のところもある。何が正解かは分からないのが現実だ。11月に入って感染が拡大している中で、対策をしっかり取り安全安心な運営が第一だと思っているが、今日も皆様からご意見をいただいてリアルイベントを望む声が大きいという事が分かった。こういった状況下ではあるが、全国の施設の状況や対策を共有させていただき、アローブならではのできる事を前に進めるサポートをしていきたい。
- T R C コロナ禍にはいろいろなことがあったが、スタッフも開館することに非常に敏感だった。有難いことに大府には予約棚があったので、開館する事ができたと思っている。図書館子どもまつりを実施するかしないかという問題にも、サポーター4役さんにもご相談させていただき、悩むところではあったが実施に踏み切った。ギャラリーにサポーターの紹介をしたのは今回が初めてだったと思う。それによってサポーターの横の繋がりが出来たと思っている。このような状況下だったからこそできたことだ。
- J C D 自粛中のアローブは目は開いているが、生きていないというような日々を過ごしていた。スタッフ間でも何が出来るのだろうか考える日々だった。そんな中で「アローブチャンネル」を立ち上げる事ができたのは良かったことだと思っている。先ほどのお話しのなかでもあったように、高齢の方に向けて情報発信していくのは大きな課題であるとスタッフも感じている。例えば「アローブチャンネル」で発信しているコンテンツをリアルで見ていただく機会を設けるとか、スマートフォンを持ってはいるけれども使い方が分からないという方も多いと感じているので、勉強会のようなものを企画したいと考えている。
- D 委員 アローブは動画配信に向けての動きが早かった。昨日も「アローブチャンネル」を見ていたが、ピアノのコンサートではピアニストの手元も良く見えるしとても良かった。リアル

で参加するには敷居の高いものも、動画で聴くことができると次は実際に行ってみたくてという気持ちになれる。そういった意味でも動画配信は非常に意味があったと感じている。また育み隊の動画についても活動内容を知ることができたので、育み隊に興味がありそうな方に紹介することも出来て良かった。

大 府 市 動画配信をしていただき、舞台を創る事とは違うのに「この人はこんな事もできるのか」という発見があった。テレビで見るものとは違うダラダラとした内容であっても、意外とうけていたり、テレビなどとは違うコンテンツとして YouTube は存在しているのだと思った。やってみないと分からない事があるとつくづく実感した。

司 会 私の仕事も対面型のものは3か月止まっていた。この時期は、こんなに自宅にいることはないという時間を過ごした。そうは言っても相談ごとなどをお電話でいただくことも増えた。いくつかヒントになりそうな事があったので紹介したい。

一番最初に対面で再開したのは6月頃だったと思うが、実施して良いものなのか微妙な時期であった。その町では毎年ファシリテーター養成講座を請け負い、会議の進行や技術を教えている。「今そんな事をやっている場合か」という意見が主催者側の役員さんにもあり、開催可否について相談を受けた。どうせならば今悩んでいるのはみんな同じなのだから、緊急スペシャルと銘打って、「WITH コロナを考える ぶっちゃけどうよ」というテーマで集まれる人だけ集まるような会を設けた。その時も会場定員の半分以下にしたり、換気の為に窓を開けたり対策を施した。また私は建築デザインが本業でもあるので、グループワークが出来るように持ち運び可能な透明のパネルをデザインし、安心して参加できるような対策もして意見交換会を実施した。30名定員のところ正直5名ぐらい来てくれればいだろうと思っていたが、意外にも30名満員となった。受付時の表情はみんな暗かったが、3時間の予定でコロナ禍の悩みや新しく始めたことなどを話し合ううちにだんだんと盛り上がっていき、会の終わりには「今後こんな事をやります」という宣言をしてももらった。先ほどの話のように「YouTubeなんて分かん」と言っていた高齢の方から、「この後ドコモショップに行ってスマホに変えます」という宣言が飛び出した。主催者のすごかったところは、その翌週に ZOOM 講座を2回連続でちゃんと企画していたところだ。みんな早速申し込みをして帰って行った。ちょっとしたきっかけがあると SNS をやれるかもと思ったり、先ほどの発言からもあったように、学べる機会があると良いのかなと思う。

別の市では「ビリギャル」のモデルになった小林さやかさんの講演会が予定されていた。リアルで実施するのは危ないという事で、YouTube のライブ配信に変更した。でも「生で実施しないと参加できない」という声があったので、サテライト会場を設けて大画面で見ることができるようにした。またサテライト会場と小林さやかさんを生で繋いで、質疑応答にも対応できるようにした。そうしたら結構高齢の方も参加してくださった。YouTube を見ることができる若い世代はチャットで質問を送ったが、サテライト会場は特別に回線を繋いでリアルで質問できるようにしたら、高齢の方からも「楽しかった」という感想が聞けた。オンラインのイベントではあるが、オフラインを提供する会場をミックスして実施

する事も、設営は大変だと思うが有効だと感じた。

また育み隊の例で言うと、今年スタッフ体制が変わったこともあって月に2回位、館長、マネージャー、担当者、育み隊のメンバーが集まって話し合う機会を設けている。育み隊の活動をどうしていくかだとか、このような状況下で何ができるかなどを話し合っている。先ほど図書館からもサポーター同士が仲良くなったという話があったが、足元を固める本当に良い機会となっている。外に打って出ること話し合っているが、それと同じくらいイベントを作っていく過程・メイキングをレポートにして発信するなど、新しい取り組みにも繋がってきている。このように新しい足元を固めるとか、仲間意識を高めるとか、仕組みを作る方に育み隊の活動をシフトさせ、一旦立ち止まって考えることができたのはこの時期だったからだと思っている。悪い事ばかりではないと感じている。以上3点今後のヒントになればと思い紹介させていただいた。その他の部分で何かあったらお願いしたい。

事務局 次回運営協議会の開催予定は2021年5月20日（木）の予定だ。

お忙しいところご出席いただきありがとうございました。

今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします

司 会 以上で協議事項はすべて終了した。閉会。